特別講演

地球の健康，社会の健康，人間の健康

北海道大学総長
寶金　清博

世界は，環境，社会制度，国際秩序において，臨界点にあると言われている．この地球規模の転換は，当然のことながら，医療・医学にも及んでおり，DX化，AIの導入，少子・高齢化という劇的な人口統計学的変化，従来考えられなかった医療倫理の課題など，大きな転換点に遭遇していることは間違いない．

また社会活動が，集中から分散に方向転換し，ICTの進歩やDXの進展により，地域での医療もそうした大きな変化の影響を受けている．

さらに，日本における地域創生や世界の大きなベクトルであるSDGs，ゼロカーボン，多様性に満ちた社会，包摂的社会などの動きは，加速し，大きな潮流となっている．これらは，医療・医学に対しても直接的な影響を与えている．

今回は，医療・医学を「地球の健康，社会の健康，人間の健康」に関わる総合的なサイエンスと捉えて，講演させていただく．これは，コロナ禍の教訓を経て，次の時代に向かう，医療・医学と社会の関係を世界，地域社会，個人のレベルで再定義することでもある．

そこで，以下の３つのレベルから「健康」を考えてみたいと思う．

①世界のレベル（地球の健康）
②地域社会のレベル（社会の健康）
③個人のレベル（人間の健康）

私達，医療・医学関係者は，これまで，③の観点から「健康」を診てきた．それは今後も変わりない最も重要な点である．しかし，これに加えて，今後は，①と②が必須のものになると考える．

私達医療・医学関係者も，ESG（環境，社会，ガバナンス）の立場から，世界の共通の価値観であり目標であるSDGsと環境保全を目指すアカデミア全体の一員としての責任がある．こうしたポストコロナの社会構築，持続可能な世界に向けて，私達のできること，そして，成すべきことを考える機会となれば幸いである．

略歴は 128 頁に記載